

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ、ムンプス）

原因

ムンプスウイルスによって感染します。感染経路は飛沫感染・接触感染ですが、感染力は比較的弱く、不顕性感染（感染しているのに症状が出ずに気づかない）の人が3割程度います。

症状

感染から約2～3週間（14～25日）の潜伏期を経て発症し、耳の下（耳下腺）が腫れます。片方からはじまり、左右両方が腫れることが多いのですが、片側だけしか腫れない人も4分の1程度います。あごの下（顎下腺）が腫れる場合もあります。腫れは痛みをとめない、食事が食べにくいなどの症状が出ますが、2～3日くらいでピークを迎え、3日～1週間でよくなります。また、多くの人に38℃程度の熱が出ますが、1～3日で解熱します。

合併症

- 1 無菌性髄膜炎：10人に1人程度にみられ、頭痛・嘔吐・けいれんなどが起こることがあります。入院が必要になるほどの重症は100人に2～3人といわれ、大部分は後遺症なく治癒します。
- 2 脳炎：脳炎の発生は500人に1人程度といわれています。
- 3 難聴：200～500人に1人に難聴がみられます。難聴は片側のことが多いので気づきにくいこともあり、難治性です。めまいやふらつきがみられる場合もあります。
- 4 睾丸炎（精巣炎）：思春期以前ではほとんどなく、主に思春期以降に感染した男性の20%程度にみられます。睾丸の痛み・腫れがみられますが、多くは片方だけなので不妊になることはまれです。
- 5 その他：まれに肺炎や心筋炎をおこすことがあります。

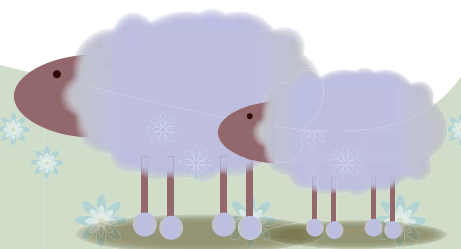
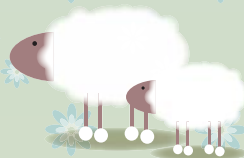
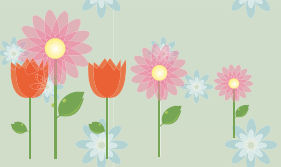
症状がよく似た別の病気

反復性耳下腺炎、頸部リンパ節炎など

治療

特別な治療はありません。症状を抑えるお薬をつかって様子を見ます。

>> 裏面へ



こんな時はもう一度受診してください

- 1 ひどい頭痛、はき気や嘔吐がある場合
- 2 意識障害（受け答えがはっきりしないなど）や麻痺が出る場合
- 3 耳の聞こえが悪い（電話を持ちかえる、耳がもやもやするなど）場合
- 4 睾丸が腫れて痛い場合
- 5 強い腹痛があったりぐずったりする場合

登園・登校

学校保健安全法では、耳下腺が腫れ出してから5日間経過し、かつ全身状態が良好になるまで出席停止としています。詳しくはおたすねください。

ご家族・きょうだいへの対応

ご家族で予防接種をしておらず、おたふくかぜにかかった経験のない人がいればうつる可能性がありますので、潜伏期が過ぎた3週目以降に症状が出ないかをみる必要があります。しかし、おたふくかぜは不顕性感染が多く症状が出ない場合もありますので、かかった記憶がなくてもすでに抗体（免疫）ができている場合もあります。

また、接触後2～3日以内に予防接種すれば発症を防げるという報告もありますが、おたふくかぜは症状が出る約1週間前から感染力があるとされており、実際には接触後の予防接種による発症予防は難しいと思われます。もし、旅行や受験を控えているなどの場合でご家族やきょうだいへの予防接種のご希望があるようでしたらご相談ください。

2014年9月改訂

2014年9月11日
高嶋 能文



たかしま よしひみ

高嶋 能文

山梨医科大学卒
日本小児科学会専門医
日本血液学会血液専門医
日本がん治療認定医
日本性感染症学会会員
日本エイズ学会会員

自由が丘メディカルプラザ 小児科

<http://www.jiyugaokamp.com/s>

TEL : 03-5731-3565

